

質問	回答
<p>Q1： 産機・環境システムセグメントの2023.3期業績予想について、前期比で増収予想とする一方で、営業利益を前期並みの水準と予想する理由を教えてください。</p>	<p>A1： 産機・環境システムセグメントは、「流体製品」「メカトロニクス製品」「環境関連事業」の3つの分野に分かれておりますが、いずれの分野も増収となる見込みです。 一方、営業利益については、「流体製品」「メカトロニクス製品」で増収増益を見込む一方で、「環境関連事業」については、プラント案件において、前年度売上案件の利益率が高かったことや、建築資材の価格高騰などに伴い、減益を見込んでおり、セグメント全体の営業利益は前期並みの水準となる予想です。</p>
<p>Q2： 特装車セグメントにおいて、林業用機械が前期比で増収とのことですが、林業用機械の事業環境見通し、競合状況、御社の林業用機械の売上高および利益規模について、差し支えない範囲で教えてください。</p>	<p>A2： 事業環境については、林野庁の後押し等により、底堅く推移する見込みです。シェアについては、正確な数値はお答えできませんが、林業機械の中では5割近いシェアを確保しております。林業用機械の売上高は年間約90億円、営業利益については高い利益率を確保しております。</p>
<p>Q3： 特装車セグメントの2023.3期業績予想について、下期の収益性に対してコメントしてください。シャシ搬入遅れの正常化を前提とすると、製品価格の引き上げにより収益性は回復する見込みでしょうか？それとも、昨今のインフレを考慮すると、さらなる追加努力が必要でしょうか？</p>	<p>A3： 半導体不足によりシャシの搬入時期が見通せず苦慮しておりますが、回復に転じるのは2022年度下期以降と予測し、大幅な収益性改善も見込みにくい状況です。また、材料費の高騰により、収益性の回復には、さらなる追加努力が必要と考えております。</p>